第八講・説明的文章④

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ア春先、よく晴れた日に、地平近くの遠方を見ると、ビルやさらに遠くの山などがゆらゆらと動いて見えることがあります。これが①かげろうです。

かげろうは、たきびの火であたためられた空気を通して向こう側（がわ）を見るとゆらめいて見えるのと同じように、太陽にあたためられた空気の向こう側の山やビルがゆらいで見える現象（げんしょう）をいいます。

春になって、日ざしが強くなりますが、アスファルトの道路やコンクリートでおおわれた都会、黒土の多い畑などは、川や湖、海などとくらべるとはやくあたたまります。そうすると、その上の空気が、さらにあたためられ、空気にむらができます。そこを光が通ると複雑（ふくざつ）に*1屈折（くっせつ）して、かげろうがおこるのです。

ガラスのコップに水をいれ、その底（そこ）を少し熱すると、かげろうと同じ現象がおこります。ひとつ実験（じっけん）してみませんか。

かげろうは、真夏でもあらわれますが、かげろうが春の風物として親しまれているのは、夏のかげろうは炎天下（えんてんか）でおき、やりきれないほどの暑さを感じさせるので、気持ちよい風物にはならないからでしょう。

春にのどかな晴天が続（つづ）いたあと、冬の気流があともどりしたように大陸（たいりく）方面から*2寒冷（かんれい）前線となって通りすぎると、かわききった*3関東（かんとう）ローム層（そう）などから*4②砂（さ）じんをふきあげ、その細かい粒子（りゅうし）は部屋のすみずみにまで侵入（しんにゅう）してきます。

東京がまだ江戸（えど）とよばれていた昔、道路は現在（げんざい）のように舗装（ほそう）されていなかったので、そこからまいあ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

がる風じん*5は、江戸のひとつの名物でした。イ*6「風が、ふけば桶屋がもうかる」という話もおそらく、そのような風土を背景として生まれてきたものでしょう。

風じんはさまざまな形で、風を見せてくれます。たとえばじん旋風、これは学校の校庭のかたすみなどで、まいあがる小型のたつまきのようなものをいいます。

風じんがひどくなると、太陽はぼんやりと赤いお盆のように見えます。電車や自動車は昼間でもヘッド・ライトをつけてのろのろ走り、それでも、ひどいときには20〜30m先が見えなくなります。

春は砂じんがまきあがるのをおさえてくれる草木がまだしげっていないので、ほかの季節よりは、よほどひどくなるのです。

春の晴れた日に、空が黄色ににごって見えることがあります。これは地表の砂じんがまいあがったり、空をにごらせていることによるものですが、空気をにごらせるものが、はるかに遠く、中国方面からとんできた場合は、③黄砂（昔は黄沙と書いた）といいます。

これに対して、たとえば関東地方などで、ローム層から砂じんがまきあげられ、空をにごらせることがあります。この場合はたんに風じんとか黄じんとかいえばよいでしょう。

ウ黄砂の源は中国の黄土高原地帯（黄河*7が大きくおれまがったあたり）のひじょうに細かいレスとよばれる粘土の粒です。これより西のタクラマカン砂漠などにある砂は、粒があらく、重いため、日本まで飛んでくる以前に落下してしまいます。

エ日本海側の雪国では黄砂が雪にまざると、黄色や赤色の雪がふります。色づいた雪はよけいに太陽光線を吸収するため、白い雪よりはとけやすく、山村の人々は④色のついた雪がふると春のくる前兆であるとしてたいへん喜びます。

（根本順吉『春のお天気』）

＊1屈折＝ここでは、光が進行方向を変えること。

＊2寒冷前線＝寒気側から暖気側へ移動している前線。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

通過（つうか）時に気温が急に下がり、雷雨（らいう）や突風（とっぷう）をともなう。
＊３関東ローム層＝関東地方の大地をおおう火山灰層（かざんばいそう）。
＊４砂じん＝すなぼこり。
＊５風じん＝風でまいたつごみ。
＊６「風がふけば…」という話
　＝風がふくことで、次々といろんなことがおこり、ついには桶屋がもうかる、という江戸時代の話。
＊７黄河＝中国で二番目に大きな川。

問一　――線①「かげろう」はどのようにしておこるのですか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

アスファルトの［　　　］や［　　　］の多い畑などが春の強い日ざしであたためられると、その上の空気がさらにあたためられ、空気に［　　　］ができる。そこを［　］が通ると複雑に［　　　］し、かげろうがおこる。

問二　――線②「砂じん」が春にひどくまきあがるのはなぜですか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

砂じんがまきあがるのをおさえてくれる［　　　］が、まだしげっていないから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　――線③「黄砂」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1)　黄砂はどこからきますか。文中から二字で書きぬきなさい。

(2)　黄砂がとんでくると、空はどうなりますか。文中から十字で書きぬきなさい。

問四　――線④「色のついた雪がふると春のくる前兆であるとしてたいへん喜びます」とありますが、日本海側の雪国の山村の人々が喜ぶのはなぜですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　黄色や赤色の雪のほうが春らしいはなやかな気分になるから。

イ　雪が太陽光線を吸収するとまわりが明るくなるから。

ウ　色のついた雪がふったあとは春の晴天が続くから。

エ　色のついた雪は白い雪より太陽光線を吸収しやすく、雪が早くとけるから。

問五　----線ア～エの文のうち、筆者の意見をのべているものを一つ選び、記号で答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 日本は、南西諸島の北緯25度以北から、北海道の北緯45度以南の範囲に、およそ緯度で20度幅の範囲に細長くのびており、①気候帯でいえば亜熱帯から温帯にあります。

2 日本では春夏秋冬の四季の変化がはっきりしていますが、四季の変化は地球上どこでも同じように進行しているわけではありません。四季の変化が*1顕著なのは温帯特有といってもいいでしょう。

3 寒帯では、夜の長い半年と昼の長い半年の交替が四季の変化よりも目立ちます。北緯65度以北になると、昼だけの半年と夜だけの半年の変化になってしまいます。その交替は春と秋にあるわけですが、半年の間、一日中闇の世界から、夜があけて②一日中昼の状態が半年も続くことになります。

4 ですから、春、北の地平があかね色に色づき、明るくなり始めるときの感激はひとしおで、そこに住む原住民たちはいろいろなお祭をして、明るい夏の到来を喜びます。

5 半年も続く夜の空に輝くのはオーロラですが、アオーロラは夜のない半年間はまったく見ることができません。オーロラの*2壮観を見ることができる半年と、一日中太陽の沈まない半年の交替があるだけです。

6 私は、春の彼岸をすぎたころ、北緯80度以北を漂流中の氷山の上に見学に行ったことがありますが、そこでは仕事をするにしてもスキーをして遊ぶにしても、夜がないので、どうしても遊びすぎてしまいます。イこの氷山に行く前に、北極研究所の所長さんから受けた第一の注意事項は、時のたつのを忘れて遊びすぎないようにということでした。

7 ウ氷山の上の気温はマイナス20℃位で、風はほとんど吹かず、一日中太陽がさしているのですから、1～2時間位なら、防寒具は東京の冬の服装でも

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さほど寒く感じません。

8 春夏秋冬の四季の変化がはっきりしているのは温帯です。この地帯でも北にいくほど春と秋は短くなり、夏と冬が長くなります。

9 それでは、温帯の四季の変化はどこでも同じかというと、そうではありません。

10 極東(きょくとう)アジアにある日本は、夏と冬で主に吹く風が交替する、いわゆる季節風（モンスーン）の地帯にあるので、太陽高度の変化による四季の変化に、さらに季節風の交替による気団(きだん)の変化が重なります。

11 エ夏に日本付近(ふきん)を支配する空気は熱帯の気団で、冬に支配するのはシベリアの亜寒帯気団です。季節風の交替によって気団の交替がおこなわれるので、四季の変化はますます顕著になります。それは30℃以上の真夏日、世界有数の豪雪(ごうせつ)地帯といった大きな*3振幅(しんぷく)の天候の変化となってあらわれています。

12 モンスーン地帯以外の四季の変化は、日本付近とはだいぶちがっています。たとえば、地中海地方はアメリカ西岸のカリフォルニアなどの地方と同じく、「冬雨気候地帯」といわれ、１年中の雨の大部分は冬に降(ふ)ってしまい、春から秋にかけては、一点の雲もないような紺碧(こんぺき)の青空が続きます。そのような場所では、冬に降った多くても５００㎜以下の雨が地下水などとしてたまり、１年中平均(へいきん)して使えるようなところでなければ住むことができません。

13 比較的乾燥(ひかくてきかんそう)した晴天の続く春夏秋を通して吹く風をエテジア風といい、季節風の一種です。それは北よりの風で、内陸部(ないりくぶ)からエーゲ海などに吹きだしてくるので晴天が続くのです。ギリシアでは、エテジア風の吹きだす頃(ころ)が春を告げることになります。

14 熱帯では１年中の気温の振幅が小さく、たとえばシンガポールでは1.7℃しかありません。［　　］、気温の変化から四季が感ぜられるということはほとんどありません。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

15 そこでみられる１年間の気候変化の特徴は、乾期と雨期のちがいです。

（根本順吉『春のお天気』）

＊１顕著＝はっきり目立つ様子。
＊２壮観＝ゆう大なながめ。
＊３振幅＝ふれはば。

問一　――線①「気候帯」とありますが、日本はどの気候帯にありますか。文中から書きぬきなさい。

［　　　　］

問二　――線②「１日中昼の状態」とありますが、この状態を筆者が体験したときのことが書かれている段落はどこからどこまでですか。段落番号で答えなさい。

［　］～［　］

問三　［　］にあてはまることばとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　ところが　　**イ**　したがって
ウ　たとえば　　**エ**　または

［　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「四季の変化」について、次の⑴～⑶に答えなさい。

⑴　日本では四季の変化が顕著なのはなぜですか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

□□□□の変化による四季の変化に、さらに□□□の交替による□□の変化が重なるから。

⑵　地中海地方の四季の変化にはどんな特徴がありますか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

春から秋にかけては□□が続き、冬に□□□□□□□□□が降る。

⑶　熱帯の地方の一年の気候変化にはどんな特徴がありますか。次の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

気温の振幅が小さく、□□□□が大きい。

（上に□□□□□の解答欄）

問五　次の⑴・⑵の内容（ないよう）について書かれている段落はどこからどこまでですか。それぞれ段落番号で答えなさい。

⑴　寒帯の季節変化について　□～□

⑵　温帯の四季の変化について　□～□

問六　――線ア～エの文のうち、筆者の意見をのべているものを一つ選び、記号で答えなさい。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　説明的文章④

一題目

問一　道路・黒土・むら・光・屈折

問二　草木

問三　(1)　中国

(2)　黄色ににごって見える

問四　エ

問五　イ

二題目

問一　亜熱帯から温帯

問二　6 〜 7

問三　イ

問四　(1)　太陽高度・季節風・気団

(2)　青空（別解　晴天）・1年中の雨の大部分

(3)　乾期と雨期のちがい

問五　(1)　3 〜 7

(2)　8 〜 13

問六　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。